

心の輪13R



『「あっ、トトロの森だ！」という資料を通して、
「自然との関わり方」について考えました！



自然を大切にするためには、自然との関わりを禁止にするのではなく、自然の植物や動物のことを思いやることで自然と関わる必要があると思った。

自然のことを思うことが、僕は『自然を大切にすること』のもととなると思います。なぜなら、自然があるから人間は生きられるから、ちょっとでも自然を思えばいいと思いました。

自然や生き物も人間と同じように生きているので、今まで以上にもっと大切にしたいと思います。老人・少年のように、自然にあいさつをしたり、生き物に優しくしたりできるようにしたいです。自然を大切にするのは自然と接し、関わることだと思いました。

自然は、人が生まれる前からあるもので、人は自然に生かされているもので、自然との関わりを禁止したら自然も守られるが…。とにかく、自然と適度な距離感で自然と関わり、自然に感謝することが大切だと思います。

『自然を大切にすること』とは、『生き物同士の関係を大切にすること』だと思いました。理由は、関係を大切にすることによって、相手のことを考えられるからです。

ゴミなどを捨てることによって自然を大切にし、森の環境を守ることができ、森についてふれないということではなく、森の緑を増やすことに力を入れたり、森にいる動物を守ったりすることが大切だと思う。

『自然を大切にすること』ということは、『自然への心を持っておく』ということだと思う。私たちが考えた自然への関わり方だと、何かをやめていくだけで、自然へ関われなくなってしまうから、老人や少年の自然への関わり方はすごいと思った。

地球環境保全の意識の高まりとともに、人間生活と自然との調和、共存を目指す考え方が広まっている。今後も、自然の恩恵を享受していくために、私たちはどうすればよieldろう。

コウノトリ野生復帰プロジェクト

かつて日本の多くの地域で見られたコウノトリは、戦後、兵庫県豊岡市など一部の地域でしか見られなくなった。

減り続けるコウノトリを救うため、豊岡市では昭和40(1965)年から人工飼育を始めた。

待望のヒナが誕生したのは、人工飼育の開始から25年目の平成元(1989)年。その後、コウノトリの飼育下増殖が軌道に乗り始めると、コウノトリをもう一度野生に帰すことが現実のものとなってきた。

豊岡市では「コウノトリ野生復帰プロジェクト」を進めている。コウノトリの野生復帰は、単にコウノトリが生息できる豊かな環境を再生、創出するだけでなく、人と自然との関係を再生、創出することを目指すものである。

平成17(2005)年、最初の放鳥が行われ、現在では70羽を超えるコウノトリが豊岡の空を舞っている。



文部科学省資料
『私たちの道徳』P.117より引用

ずっと前から日本は、自然に支えられ、自然を支えながら暮らしてきたから、これからも自然を大切にし、自然を保護しながら暮らしていけたらいいなと思った。